

輪島市から珠洲市にかけて 海岸線の大規模崩壊現場など

藤野やすふみ 前衆議院議員 共同支援センター所長 視察



土砂崩れの現場の下には土嚢袋が置かれただけの対応

6月24日、藤野やすふみ能登半島地震被災者共同支援センター所長（前衆議院議員・北信越北陸ブロック比例予定候補）と事務局長の黒梅明さんが、輪島市から珠洲市にかけての海岸線の大規模な崖崩れ現場などを緊急に視察しました（写真）。

巨大な岩がゴロゴロ崩落しており、その下を水がチョロチョロと流れている状態で、民家も近く、余震や大雨があったら今にも崩れ落ちそうな大岩がむき出しになっています。

藤野氏は、「ほかにも様々なことが現地を見てわかりました。共産党災害対策本部、国会議員団、日本共産党石川県委員会、県議団、地方議員や関連団体とも、連携して今後の活動に生かし、対策を講じていきます」と話しました。

輪島市大屋で、現在もビニールハウスで暮らす方からもお話を聞きました。

「市からの情報が全くない。情報があれば心構えもできるのだけれど…」と話されました。

応急的な対応だけで、今にも崩れそうな現場



輪島市門前の集落の手前、海岸沿いの大規模ながけ崩れ現場を視察する藤野氏(6月24日)